

TAC 電験三種講座

石田先生からのメッセージ

23.07.12



本試験CBT方式 受験レポート

①筆記とCBT間での難易度の違い

最初の印象としてはCBTの方が若干易しいかなと感じましたが、4科目受験後に振り返ってみると、易しい問題もあれば難しい問題もあり、そこは筆記試験と同じなので、大きな差異はなかったように思います。

ただやはり、人によって問題が変わるのがCBT方式なので、計算問題多めの編成に当たったときはCBTの方が不利かなと思います。

②機器や電卓(テンキー)の操作仕様は難しくなかったか

電卓は持ち込み可能なので、使い慣れたものを忘れず持って行ってください。

操作に関しては、正直に難しく感じました。

難しいというより、『快適性に欠けるので細かいタイムロスが各所で発生する』といった方が良いかもしれません。

1. マウス操作とメモ書きの両方に利き手（私の場合は右手）を使う
2. ページの切り替えに一瞬ロードを挟むので、問題の行き来がスムーズでない
3. メモ用紙は最初に1枚渡され、2枚目以降は追加でもらう形なので、待ち時間がある

これらの細かいタイムロスは想像以上に焦りにつながります。

特に理論、機械のように計算問題の多い科目では、時間が足りなくなる受験者が多いため、余計にタイムロスの影響を受ける気がします。

③その他受験する上で気をつけた方がいいと感じた箇所

試験画面では赤や青といった色ペンで書き込みが可能です。

これらの機能や電卓の使い方、操作性の確認をCBT会場で試験当日に落ち着いてできるかという点、多くの人にとっては難しいのではないかなと思います。

「機能の確認してたら時間足りなくなっちゃって、最後の方の問題解けてないんだよね」となることも考えられるため、やはり時間のかかる理論や機械は、今のところ筆記での受験が安心かもしれません。